

福岡教育大家政 高木 葉子

1. あらゆる分野への既制服の進出により、家庭での被服製作技能は漸次、必修の技能ではなくなりつつあると言われる。家庭生活内の身近な事柄を題材として生活の改善、向上を資し、その指導過程で科学性を育て、応用力、実践力、思考力、総合力等を育てようとする小中学校の家庭科教育において、変遷して行く衣生活に対応して被服分野の教材をどう設定し、どう指導するかは今なお曖昧で疑問が多い。この一助とすべく表題の実態調査を実施し、家庭での被服製作方法の実態を明らかにしたのでその1報を報告する。

2. 福岡市を小学校区5区に分け、2校ずつ計10校の小学校を無作為に抽出し、1,300枚の質問紙を配布して、昭和41年5月～6月に回答を求めた。内容は、被服製作方法に関する事項が中心で、31種類の衣服分類について、既制服購入、自家製作、仕立屋依頼の3方法を組合わせて13項目に分け回答を求めた他、休養着の種類、古着の処理法等8項目の調査を加えて行なった。

3. 被服全体を平均しての製作方法は、既制服購入が約50%、自家製作が25%、仕立屋依頼が25%で、既制服利用は下着類、寝巻および男子用衣服に多く、乳児用衣服、日常着、ふとん類に自家製作、女子成人外出着に仕立屋依頼が多い。この傾向は各家庭の生活程度、主婦の能力、余暇時間等により異なるが明確な相関関係は見られない。既制服の種類が多くなり、価格が安くなればこの利用はますますふえよう。